

＜がんの栄養管理に関する食事と栄養についての意識調査＞

栄養相談をしない がん患者さんが約4割

森永乳業グループの株式会社クリニコは、キャンサーペアレンツ(子どもを持つがん患者同士がインターネット上で交流することができるコミュニティーサービス)と共同アンケート調査を実施しました。

がんによる死亡数は年々増加傾向にあり、2015年のがん死亡数は1985年の約2倍にあたる約36万人となっています。(国立がん研究センター調べ) がん治療の進歩は目覚ましく、がんと共存する時代となっており、栄養状態をしっかりと保つことは、がんの治療を続けられることに加えて、患者さんのQOLの向上にも寄与する事が期待できます。

がん患者さんに対する栄養管理についての意識は徐々に高まりつつありますが、がん患者さんは食事や栄養に関して、実際には誰(何)から知識を得て、どんな食材を、どれくらいの金額をかけているのかを把握するために、キャンサーペアレンツの会員様を対象に、「食事と栄養についての意識調査」を実施しました。

*キャンサーペアレンツは、子育て世代、働く世代のがん患者の「声」を世の中へ発信しがんになっても生きていきやすい社会の実現に向けて、活動を行っています。

*株式会社クリニコは、『予防・治療・介護を通して、一人ひとりの Quality of Life の向上に貢献する』という経営理念のもと、設立当初から現在に至るまで、森永乳業グループ病態栄養部門として、森永乳業(株)と共に、研究・開発に取り組んでいます。

＜意識調査の主な調査結果＞

- 1) 栄養相談をしない がん患者さんが過半数。
栄養相談をする機会がなかった方が約40%、機会があっても利用しなかった方は約14%。
- 2) 栄養相談する機会がなかった方は、サプリメントに投資する金額が多い。
栄養相談の機会があった方の約2倍の投資

＜調査概要＞

【標題】がん患者さんの食事と栄養についての意識調査

【調査主体】株式会社クリニコ/キャンサーペアレンツ

【対象者】キャンサーペアレンツ会員 26歳～68歳 全国男女 256名

【調査期間】2017年8月24日～9月22日

【調査方法】インターネット調査

栄養相談をしない がん患者さんが過半数。

⇒がんの治療中に、通院(入院)先の病院スタッフに対して、栄養や食事について相談する機会があったか?という質問に対して、過半数の 138 名が「なかった」「あっても利用しなかった」と回答しました。(回答数 256 名)(図1)

医療従事者からがん患者さんに対する栄養管理についての情報提供の機会をがん患者に十分提供できていない、がん患者さんに対する栄養管理の重要性を伝えられていない現状が浮き彫りとなりました。

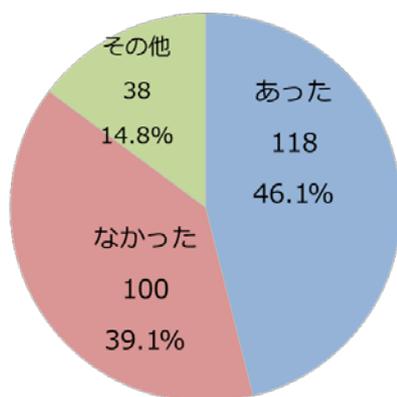


図1 がんの治療中に、通院(入院)先の病院に、栄養や食事について相談する機会があったか?

栄養相談する機会がなかった方は、サプリメントに投資する金額が多い。

⇒栄養・食事についての相談の機会の有無と、サプリメント投資額の関係性をみると、栄養相談の機会がなかった方の投資金額が大きくなる(栄養相談の機会があった方の約2倍)傾向にある事が、うかがえました。(図2)

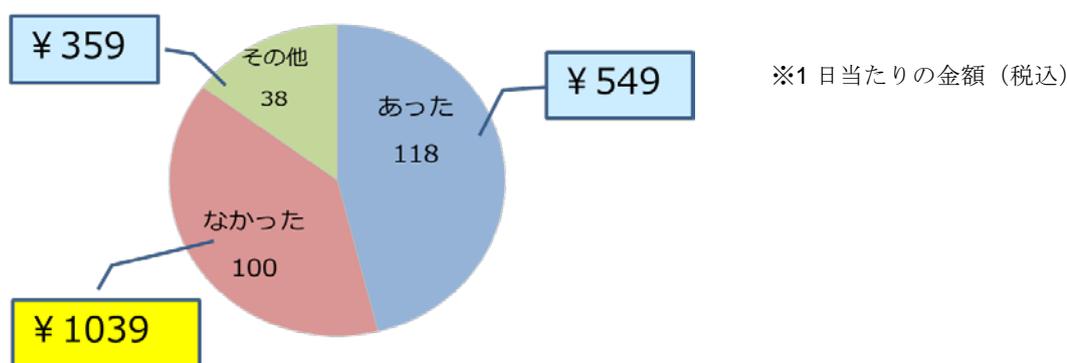
正しいがん患者さんに対する栄養管理の知識が得られない結果、インターネットや民間療法などに頼っている可能性が示唆されます。

がん患者さんは、食物の通り道である口の中、食道、胃、大腸にがんが出来たり、がんが大きくなった結果、腸管が圧迫されて通過障害が起きたりして食事が摂れなくなることがあります。がんが進行して痛みが続いたり、抗がん剤治療、放射線治療の副作用の結果、食欲不振に陥り、十分な食事が摂れなくなることがあります。

また、がんが進行してくるとがん患者さん特有の代謝異常によって、体重減少が引き起こされます。

医療スタッフから正しい知識を得て、必要な栄養を摂ることが重要です。

図2 栄養や食事についての相談の規格の有無とサプリメント投資額

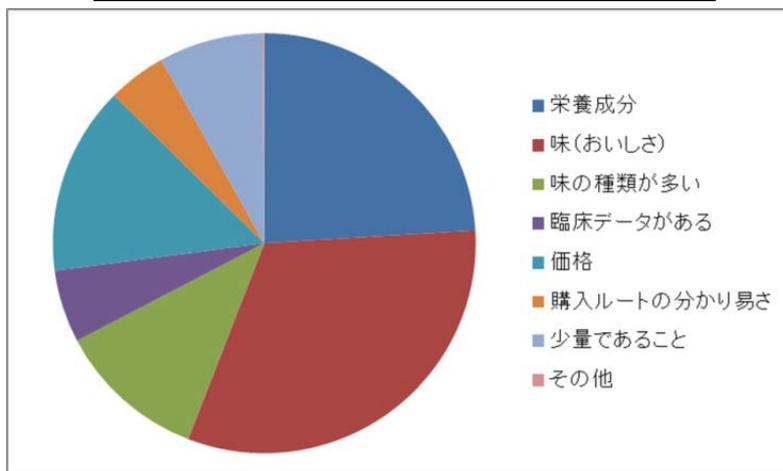


「サプリメントの種類」「摂取タイミング」「購入場所」「購入頻度」「勧められた人」については、「栄養相談の機会の有無」に違いはみられなかったことから、自己判断でのサプリメント摂取は、投資金額が大きくなる傾向にある事が分かりました。

一方で、栄養相談する機会があっても、「何を食べれば良いか分からなかった」方と回答した方が半数を占め（52.5%）、栄養相談では、実際に患者さんが求めている情報を提供できていない現状が伺えました。サプリメントは、「野菜ジュース」や「乳酸菌」の摂取率が高い傾向が見られ、何を食べれば良いか分からないが、「何となく体に良さそう」「手軽に買える」点が評価されていると考えられます。

2015年に医療従事者を対象に実施したアンケート調査では、「がん患者さんへの栄養指導で重要視する栄養成分」として、「エネルギー」・「たんぱく質」が上位を占めました。がん患者さんでは副作用から食欲不振になる方も多く、土台となる食事量の減少が懸念されます。サプリメントだけに頼った食事では、「エネルギー」「たんぱく質」が不足し、体重減少・体力低下を引き起こし、治療効果の低下や、治療の中断に繋がる事もあります。サプリメントだけではなく、「栄養状態を良好に保つこと」のために、栄養補助食品を上手に使う事も良いと考えられます。

図3 **がん患者さんへの栄養指導で重要視する栄養成分**



N=252 クリニコ調べ（2015）

お問い合わせ先

株式会社クリニコ 営業本部 ついき立木

<お客さまからのお問い合わせ先>

TEL. 03-3793-4101

通話無料 0120-52-0050

ホームページ <http://www.clinico.co.jp>

以上